

経済指標ウォッチャー

10月米小売売上高 市場予想を上回る

堅調な消費は続くと思われるが継続する物価高騰が懸念材料

小売売上高とは？

百貨店やスーパーなどの小売・サービス業の月間売上高について、サンプル調査をベースにした景気関連の経済指標（耐久財と非耐久財に大別）。消費者が商品購入にどれだけお金を使ったかが分かる。個人消費はGDP（国内総生産）の中でも大きな割合を占めることが多いため、個人消費のトレンドや景気の良し悪しを判断するためにも重要視される。

小売売上高は市場予想を上回る

米商務省が16日発表した2021年10月の全米の小売売上高（季節調整済み）は前月比1.7%増の6,382億ドルとなり、市場予想の同1.4%増を上回りました。10月の消費者物価指数が31年ぶりの高水準となるなど物価上昇が続く中でも、消費意欲が依然として高いことが示される結果となりました(図表1)。

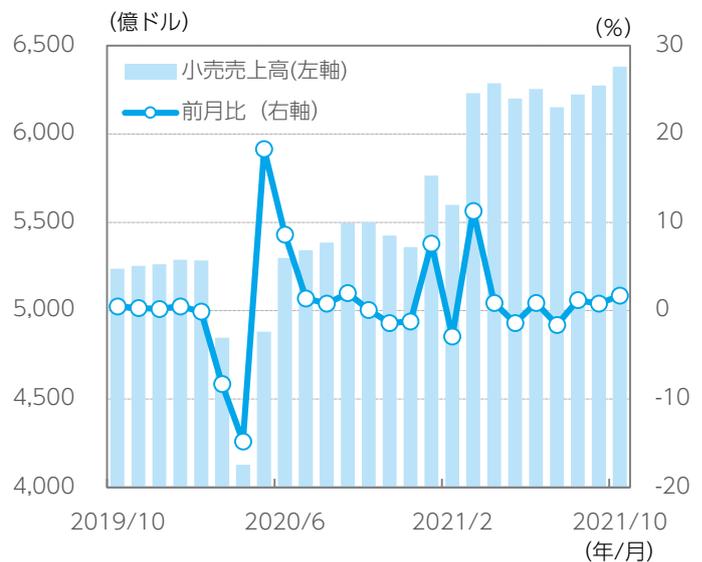
内訳を見ると、燃料価格高騰の影響もありガソリンスタンドの売上高が同3.9%増と大幅に増加しました。また、デルタ株感染の影響もあり、オンライン通販が同4.0%増となった一方で、唯一のサービス分野である飲食店の売上高は前月比横ばいとなり、引き続き新型コロナウイルス感染の影響が大きいことが示される結果となりました。

年末商戦が期待されるも物価高騰は懸念材料

ミシガン大学が12日に発表した11月の消費者信頼感指数(速報値)(1966年=100)は、66.8と前月の71.7から低下し、2011年11月以来10年ぶりの低水準となりました(図表2)。先行きの見通しを示す期待指数が大きく低下しており、個人消費が抑制されることも考えられます。

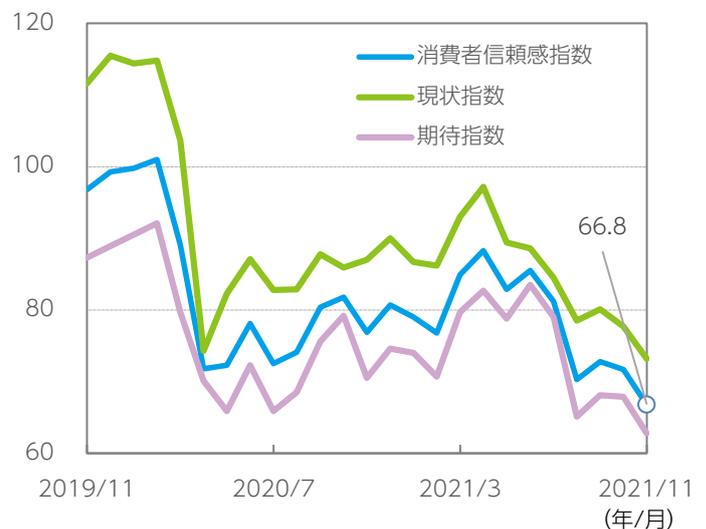
市場では、足元の堅調な消費は半導体不足や供給網の混乱による製品不足を受けて年末商戦が前倒しで開始されている影響との見方が一部であるものの、賃金の増加や今後年末商戦が本格化することなどから堅調な消費が続くものとみられます。しかし、物価高騰の主因と言われる供給網の混乱や原材料不足が解消せず、物価高騰が継続すれば、消費者が消費に慎重な姿勢を強める可能性もありそうです。

図表1：小売売上高の推移



データ期間：2019年10月～2021年10月（月次）
出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

図表2：ミシガン大学消費者信頼感指数の推移



データ期間：2019年11月～2021年11月（月次）
出所）CEICのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

コールセンター 0120-762-506
9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）
ホームページ <https://www.nam.co.jp/>